

**未来塾「俳句を楽しむ」2024年春季(73期)～ 投句、
神奈川県現代俳句協会 磯子凧句会、インターネット句会、
蚤の会 熱刀句乱舞句会 他 投句**

1. 20240110_未来塾「俳句を楽しむ」 ①兼題「回す」1句 ②当季雑詠1句
①初回し 孫ははじめて 地球ゴマ
②節料理 振る舞い忙し 三年ぶり
2. 20240124_未来塾「俳句を楽しむ」 ①兼題「聞く」1句 ②当季雑詠1句
①蠟梅や 能登にいつ咲く 急かせ聞く
②蠟梅や 黄の鎧兵(よろいへい) 一番手
3. 20240207_未来塾「俳句を楽しむ」 ①兼題「塗る」1句 ②当季雑詠1句
①踏の臺 庭に春塗る 先頭馬
②臥龍梅 歳重ねど 空にらむ
4. 20240221_未来塾「俳句を楽しむ」 ①兼題「守る」1句 ②当季雑詠1句
①薦被り 笠の内かな 寒牡丹
②長谷の梅 自撮りの二人 空きを待つ
5. 20240306_未来塾「俳句を楽しむ」 ①兼題「解ける、溶ける」1句 ②当季雑詠1句
①梅見山今に溶け出る 広重絵
②酒粕や 売り切れ表示 酒屋呑み
6. 20240320_未来塾「俳句を楽しむ」 ①兼題「揺れる」1句 ②当季雑詠1句
①鯖焼き 小骨続々 揺れぬ味
②卒業や 写る微笑み 子より父母
7. 20240403_未来塾「俳句を楽しむ」 ①兼題「跳ねる」1句 ②当季雑詠1句
①園児列 足跡跳ねる 桜道
②陽光や 古木を継いで 初桜
8. 20240417_未来塾「俳句を楽しむ」 ①兼題「切る」1句 ②当季雑詠1句
①舞鶴港 シャツタ切る 音春の雲
②古里の 千本桜若木 映え
9. 20240501_未来塾「俳句を楽しむ」 ①兼題「吹く」1句 ②当季雑詠1句
①いま 主役日陰に 芽吹く 茗荷竹
②年のせい 眼張沖釣りに 酔い忘れ

10. 20240515_未来塾「俳句を楽しむ ①兼題「焼く⇒切る(勘違い)」1句 ②当季雑詠1句
句①綿蒔きや種子の綿切る軒日向
② 母の日に届く花株孫の顔
11. 20240605_未来塾「俳句を楽しむ ①兼題「弾く」1句 ②当季雑詠1句
①鴨の子の弾む羽音や川瀬道
② ちびバッタ乗りてゆったり花菖蒲
12. 20240619_未来塾「俳句を楽しむ ①兼題「抜ける」1句 ②当季雑詠1句
①コロナ抜け山王祭山車を撮る
②免許証更新通知迷う梅雨
13. 20240703_未来塾「俳句を楽しむ ①兼題1句「出る」1句 ②当季雑詠1句
①ヤマモモの光る深紅や転げ出る
②サボテンの花や懐かしトゲもある
14. 20240717_未来塾「俳句を楽しむ ①兼題1句「残る」1句 ②当季雑詠1句
①半夏生残る緑は三分かな
②瀬戸の鱧梅と湯引きと磯の風
15. 20240807_未来塾「俳句を楽しむ ①兼題「群れる」1句 ②当季雑詠1句
①布袋草鮒に群れられ膨れ顔
②コロナ明け顔の見たさや暑気払い
16. 20240821_未来塾「俳句を楽しむ ①兼題「通る」1句 ②当季雑詠1句
①棚経の鉦の音通る古屋敷
(棚経の鉦の音しみる古空き家)
②火の粉散る真上の花火5千発
(首回す真上の花火父母の顔)
17. 20240904_未来塾「俳句を楽しむ ①兼題「伸びる」1句 ②当季雑詠1句
①枝豆の湯気立つ山や手が伸びぬ
②駅舎にて挿花見納め翺雲
18. 20240918_未来塾「俳句を楽しむ ①兼題「引く」1句 ②当季雑詠1句
①太刀魚の塩焼き絶品うねる引き
②米あるか兄の電話や届く早稲
19. 20241002_未来塾「俳句を楽しむ ①兼題「立つ」1句 ②当季雑詠1句
①酒粕の売り始め聞く立ち呑み屋
②棉摘の露の乾きを待つ朝

20. 20241016_未来塾「俳句を楽しむ ①兼題「割る」1句 ②当季雑詠1句

- ①鬼皮の割り方もめる丹波栗
- ②豊作か苜田見渡すトンビ凧

21. 20241106_未来塾「俳句を楽しむ ①兼題「書く」1句 ②当季雑詠1句

- ①お歳暮の添え書きで知る交わしどめ
- ②火打ちして響く手打ちや熊手市

22. 20241110 当季雑詠2句 現代俳句協会講座3

- ①新米や郷(くに)から届く光る粒
- ②葉が散りて柿の鈴なりせまる滝

23. 20241120_未来塾「俳句を楽しむ ①兼題「点す(とます)」1句 ②当季雑詠1句

- ①渋柿の灯点く窓古屋敷
- ②しおりにと桜紅葉や散歩道

24. 202412204_未来塾「俳句を楽しむ ①兼題「開く」1句 ②当季雑詠1句

- ①タッパーのソイの煮凝り透ける海
- ②天日干す大根棚や三浦浜

25. 20241208 ①当季雑詠2句 現代俳句協会講座4

- ①しおりにと桜紅葉を日暮坂
- ②冬日差す枯露柿の影古屋敷

26. 20241220 ①兼題「打つ」1句 ②当季雑詠1句

- ①殻を踏むイチヨウ並木や冬日向
- ②冬日差す枯露柿の影古屋敷

27. 20250108 ①兼題「過ぎる」1句 ②当季雑詠1句

- ①冬の星逝きし弟と過ごし里 / 冬の星亡き弟と過ごす里 / 冬の星亡き弟を偲ぶ里
/ 弟の面影(於母影)しのぶ冬の星
- ②寒牡丹編笠かぶり温き宿

28. 20250112_①当季雑詠2句-新年、正月など 現代俳句協会講座5

- ①木守柿空に朱ひかる古屋敷

②蠟梅や黄の鎧兵(よろいへい)一番手

29. 20250129_未来塾「俳句を楽しむ ①兼題「聞く」1句 ②当季雑詠1句

①新聞の投函音や冬の朝／新聞の投函音や冬の霜／新聞の投函音や寒鴉
／新聞の投函音や寒雀

②春隣厚く藁敷く竹の庭／竹林の厚き敷き藁春隣

30. 20250205_未来塾「俳句を楽しむ ①兼題「喜ぶ」1句 ②当季雑詠1句

①上り築(やな)喜色漂うイサザ獲り／魚獲りの喜色満面上り築

②納骨や木の芽和む代がわり／納骨の木の芽和らぐ日差しかな

31. 20250219_未来塾「俳句を楽しむ ①兼題「壊す」1句 ②当季雑詠1句

①壊れても懐中時計父の春

②菜の花忌遠く夢追う坂の上

32. 20250220_第五回木の芽風「俳句の島」俳句大会

①竹林の厚き敷き藁春隣⇒「秀逸」作に選定

②蠟梅や黄の鎧兵一番手

33. 20250305_未来塾「俳句を楽しむ ①兼題「返す」1句 ②当季雑詠1句

①跳ね返り光る川面や春の鯉

／跳ね返る光の川面春の鯉 又は 跳ね返る川面の光春の鯉

②舟縁に雲に入りたる鳥の影／舟縁をよぎる鳥影春深し

34. 20250319_未来塾「俳句を楽しむ ①兼題「剥がす」1句 ②当季雑詠1句

①ポンカンの剥がす香りや春の風

②諸子天抹茶塩合う舌鼓

菜飯盛る茶碗の香り里ごころ

35. 20250402_未来塾「俳句を楽しむ 兼題「食らう」1句 ②当季雑詠1句

①背伸びする花大根や庭の顔

②大荷物街の新顔風光る／大荷物の街の新人風光る／荷物引く街の新顔風光る

36. 20250416_未来塾「俳句を楽しむ ①兼題「捨てる」1句 ②当季雑詠1句

①春愁や捨てる本束紐を解く

②やり残し減らすつもりや花筏

37. 20250416_未来塾会報誌「未来の風」への投句

棚経の鉦の音通る古屋敷

38. 20250507_未来塾「俳句を楽しむ ①兼題「並ぶ」1句 ②当季雑詠1句

- ①角打ちや並ぶ馴染みに風薫る
- ②空豆や焼いて塩して福のあて

39. 20250521_未来塾「俳句を楽しむ ①兼題「匂う」1句 ②当季雑詠1句

- ①苔の花雨に光るや古寺の朝／花苔の雨に光るや古寺の朝／苔の花雨に光るや石の段
／打つ雨に踊る花苔石舞台
- ②宴の朝雨に目覚めし花菖蒲

40. 20250604_未来塾「俳句を楽しむ ①兼題「開く」1句 ②当季雑詠1句

- ①えごの花下向き顔の残りけり
- ②棉蒔や欠けた双葉のいくさ時／棉の芽や欠けた双葉のいくさ時

41. 20250618_未来塾「俳句を楽しむ ①兼題「吹く」1句 ②当季雑詠1句

- ①風鈴のささやく響き隣り風
- ②梅雨晴間町の落語で大笑い／梅雨晴間町の落語や苦笑い／梅雨晴間町内会の落語
かな

42. 20250627_總持寺合同吟行会 囑目2句

- ①梅雨の朝光る廊下や僧の影
- ②梅雨晴間一筋昇る香炉かな／梅雨晴間一筋昇る太祖堂

43. 20250702_未来塾「俳句を楽しむ ①兼題「折る」1句 ②当季節雑詠1句

- ①梅雨晴や並ぶ折傘逆さ干し
- ②梅雨の朝光る廊下や僧の影／百間の光る廊下や梅雨の朝／梅雨の朝光る廊下や僧走
る

44. 20250716_未来塾「俳句を楽しむ ①兼題「鳴る」1句 ②当季節雑詠1句

- ①初蟬や聞き耳立てし川辺道／初蟬や聞き耳立てる川辺道

②揺れる朱(あか)ほうずき市の帰りかな

45. 20250721_神奈川県現代俳句協会インターネット句会3句_当季雑詠など何でもよい

①鬼灯や迷う青株市の棚

②風鈴の囁く遠音隣り風

③初蝉や聞き耳立てる繁みどり

46. 20250716_未来塾「俳句を楽しむ ①兼題「見る」1句 ②当季節雑詠1句

①観蓮会トンボになりて巡りたし／観蓮会トンボ目線で巡りたし
／蓮池やトンボになりて巡りたし

②木漏れ日や象鼻杯飲む阿弥陀堂

47. 20250820_未来塾「俳句を楽しむ ①兼題「回る」1句 ②当季節雑詠1句

①盆僧や灯籠の影袈裟に揺れ／灯籠の影が回るや袈裟に揺れ／灯籠や影が回りて袈裟
に揺れ／盆僧や回る灯籠袈裟に揺れ／灯籠や影の回るや袈裟に揺れ／灯籠や影が回り
て仏間揺れ／灯籠の影が回るや仏間揺れ

見出しを追加([表示形式] > [段落スタイル])すると、目次に表示されます。

② 初盆やどんな居心地施餓鬼寺／初盆や居心地を聴く施餓鬼棚／供養棚の居心地を訊
く盂蘭盆会／初盆や棚の居心地聞いてをり

9. 灯籠や影が回りて仏間揺れ

回り燈籠でしょうか。掲句、「灯籠や」と切っていますが、意味は
切れていません。灯籠の影が「回りて」仏間が「揺れた」ということで
「何が何して何々」という報告になってしまいました。

「回る」がテーマですから「回る」を入れたのだと思いますが、
単に燈籠の影が回っている、揺らいていることを言えば良いです。

(例)燈籠の影回りたる仏間かな

燈籠の影揺らぎたる仏間かな

16. 初盆や居心地を訊く施餓鬼棚 (木下研作)

「初盆」と「施餓鬼棚」の季重なりです。亡くなった方に施餓鬼棚の

居心地を聞いているという意味だと思いますが、文の形からは「訊く」は
終止形ではなく(終止形だとしたら三段切れ)、連体形ですので、施餓鬼棚
に掛けて、施餓鬼棚が主語と読めてしまいます。

語順を変えて「施餓鬼棚の居心地を訊く」でしょう。

(例) 供養棚の居心地を訊く孟蘭盆会

初盆や棚の居心地聞いてをり

48. 20250818_神奈川県現代俳句協会インターネット句会3句_当季雑詠など何でもよい

① 燈籠の影が回るや仏間揺れ

② 初盆や居心地を訊く施餓鬼棚／供養棚の居心地を訊く孟蘭盆会

③ 観蓮会トンボになりて巡りたし

49. 20250820_青葉風俳句大会 未発表の、夏もしくは秋の雑詠2句一組、@1,000円

① 風鈴や遠音耳貸す書齋窓／風鈴の囁く遠音書齋窓／風鈴の囁く遠音隣り風

② 蓮池やトンボになりて巡りたし

50. 20250903_未来塾「俳句を楽しむ ①兼題「眠る」1句 ②当季節雑詠1句

① 睡蓮や寝ぼけまなこも池の華

② 風に鳴る風船かずら庭の涼／風に鳴る風船かずらのぞく子ら／風に鳴る風船かずら通
学路

51. 20250917_未来塾「俳句を楽しむ ①兼題「振る」1句 ②当季節雑詠1句

① 秋刀魚焼く久し振りかなフルサイズ

② 墓じまい柱数えし秋彼岸／墓じまい柱数えし走馬灯／秋彼岸柱数えし墓じまい／秋彼
岸しまう柱や数えをり

52. 20250915_神奈川県現代俳句協会インターネット句会3句_当季雑詠など何でもよい

① 焼き秋刀魚久し振りかなフルサイズ

② 秋彼岸移す柱を数えをり

③ 炎暑日や娘も小傘親子連れ

53. 20250920_神奈川県現代俳句協会俳句大会2句_

- ①焼き秋刀魚久し振りかなフルサイズ
- ②秋彼岸しまふ佛を数えをり
- ③炎暑日や娘も小傘親子連れ／炎暑日や晴雨兼ねたる親子傘
- ④萩散るや恩師の訃報回しをり
- ⑤初盆や棚の居心地聞いてをり

最終投句

- ③炎暑日や娘も小傘親子連れ
- ⑤初盆や棚の居心地聞いてをり

54. 20250924_磯子凧句会投句5句(初回参加)

- ①「運」の兼題詠み込み ②~⑤当季雑詠
- ①杉の香を運ぶリングや秋の空／大リング杉の香運ぶ秋の空／秋空や杉の香運ぶ大リング
- ②綿摘や露の乾きを待つ朝
- ③酒粕の売り始め訊く古酒屋
- ④炎暑日や娘も小傘親子連れ
- ⑤秋彼岸しまふ仏を数えをり

55. 20251001_未来塾「俳句を楽しむ ①兼題「突く」1句 ②当季節雑詠1句

- ①秋の風杉の香突くや大リング
- ②ずっしりと稲架(はざ)のたわみや里の風

56. 20251015_未来塾「俳句を楽しむ ①兼題「貼る」1句 ②当季節雑詠1句

- ①雲裏の月見の会やチラシ観る
- ②新米の半俵袋郷の顔

57. 20251020_第66回神奈川県現代俳句協会インターネット句会3句_当季雑詠など何でもよい

- ①新米の半俵袋届く里(1点)
- ②秋の風杉の香走る大リング(0点)
- ③ずっしりと稲架はざのたわみや里の風(2点)

58. 20251105_未来塾「俳句を楽しむ」①兼題「噛む」1句 ②当季節雑詠1句

①干芋のかけら噛みしめ一人酒／立冬の冷氣噛みしめ深呼吸

②芋煮会かまど駆け寄る秋の川／芋煮会かまど駆け寄る秋の谷／芋煮会炉端駆け寄る秋の谷／芋煮会駆ける炉端や秋の谷

59. 20251105_舞鶴墓じまい

①秋霖や百年越しの墓じまい

②墓じまい想い連なる神無月

60. 20251119_①兼題「治る」1句 ②当季節雑詠1句

①秋時雨おさめし墓や百年目

②大き目を担ぐ熊手や得意顔(1点)

61. 20251114_一の酉@大鷲神社

大き目の肩に熊手や得意顔

火打石垂れる頭や酉の市

火花散り響く手拍子一の酉／散る火花手拍子響く一の酉

木守柿鳥に半分つえばまれ

62. 20251117_第67回神奈川県現代俳句協会インターネット句会3句_当季雑詠など何でもよい

①干芋のかけら噛みしめ一人酒(1点)

②秋霖や百年越しの墓じまい(6点)

③散る火花手拍子響く一の酉(2点)

63. 20251126_磯子凧句会投句5句(2回目参加)

①「濁」の兼題詠み込み(「抱く」の勘違い) ②~⑤当季雑詠

①秋の星白濁に座す万座の湯／秋の星白濁ひたる万座の湯／秋の星湯気も白濁万座の湯／角打ちの濁酒試す冬日和(3点)

②散る火花手拍子響く一の酉／散る火花頭を垂れる一の酉

③新米の半俵袋届く里

④秋霖や百年越しの墓じまい(3点)

⑤大鍋を囲む芋煮や河原風(2点)／大鍋を分ける芋煮や河原風

64. 20251203_未来塾「俳句を楽しむ」①兼題「当たる」1句 ②当季節雑詠1句

①大鷲(おおとり)の射的の的やミニ熊手／大鷲(おおとり)の射的に並ぶミニ熊手

②錦秋やスズのあとゆく立石寺／芭蕉忌やスズのあとゆく立石寺／最後かとスズのあとゆく立石寺／観納めとスズのあとゆく立石寺／芭蕉忌や山寺の紅観納めし／芭蕉忌の山寺の紅見納めし／芭蕉忌の山寺登る最後かな

佐藤評

△11. 大鷲(おおとり)や射的に並ぶミニ熊手 (木下研作)

大鷲とは「大鷲神社」でしょう。酉の市に射的屋があったのでしょうか。実景感があります。「大鷲」と「ミニ熊手」の対比が面白いユーモア句です。

私も予選に頂きました。

ただ、上五の「や」はどうでしょう。上五の「や」は感動点の提示ですから、大鷲神社に詠嘆をしていることになります。この句の眼目、発見は「ミニ熊手」の方ではないでしょうか。上五は「の」の方が自然でしょう。

(例)大鷲の射的に並ぶミニ熊手

22. 芭蕉忌の山寺登る最後かな (木下研作)

「...最後かな」と詠嘆していますが、この「最後」とは何を言っているのか分かり難いです。山寺に登る人々の中で、自分が最後尾で登っていることを言っているのか、或いは、「山寺に登るのはこれが最後だろうか」という感慨を言っているのか。おそらく意図は後者なのだろうと思いましたが、「最後かな」と最後であることを断定的に言っているのです、そうとは取り難いです。(口語の疑問の助詞「かな?」の意味で使っている訳でもないでしょう。)最後だろうか、という疑問・推量の意味をはっきり分かるようにして。

(例)山寺に登る最後か翁の日

65. 20251215_第68回神奈川県現代俳句協会インターネット句会3句_当季雑詠など何でもよい

- ①天日干す大根棚や三浦浜(3点)
- ②年の暮仏具磨きて目覚めけり
- ③山寺に登る最後か翁の日(2点)

66. 20251217_未来塾「俳句を楽しむ」①兼題「磨く」1句 ②当季節雑詠1句

- ①磨けども光らぬままの虎落笛／年の暮仏具磨きて目覚めけり(1点)

②生(な)り年と届く枝柿三函目／生(な)り年と届く柿ジャム函のすみ

67. 20251220_ 蛭の会 第192回熱刀句乱舞句会@横浜市幸画ヶ谷集会場(初回)

- ①テーマ「控える」2句 ②雑詠2句 計4句 cf欠席者投句 テーマ1句雑詠1句 計2句

①テーマ「控える」2句

芭蕉忌の山寺登る最後かな(1点)
年の瀬やし残し並ぶ手帳替え

②雑詠2句

葉にと桜紅葉や夕陽坂

冬日差す枯露柿の陰古屋敷

68. 20251219_第68回神奈川県現代俳句協会インターネット句会3句_当季雑詠など何でもよい

天日干す大根棚や三浦浜
年の暮仏具磨きて目覚めけり
山寺を登る最後か翁の日

69. 20260107_未来塾「俳句を楽しむ ①兼題「新年詠」1句 ②当季節雑詠1句

①床の間の隅の賑わい七福神／彼までも年賀じまいや古き縁(1点)
②看病の甲斐のなきしか寒見舞／日めくりの当たる格言初暦／角打の変わる日めくり年の暮

70. 20260107_未来塾「俳句を楽しむ ①兼題「光る」1句 ②当季節雑詠1句

①灯す火やしんと静まるどんど焼き(2点)
②松過や響く石焼芋の声／松過や響く石焼藪の声(2点)

71. 20260119_第69回神奈川県現代俳句協会インターネット句会3句_当季雑詠など何でもよい

①蠟梅や黄の鎧兵(よろいへい)一番手
②看病の甲斐のなきしか寒見舞(2点)／看病の甲斐もなきかな寒見舞
③松過や響く石焼芋の声／松過や響く石焼藪の声

72. 20260125_蛮の会新年句会@横浜市幸ヶ谷集会場

①テーマ 当季雑詠4句 cf 欠席者投句 テーマ1句当季雑詠2句
上記3句を出句

松過や響く石焼藪の声
蠟梅や黄の甲冑の一番手
看病の甲斐もなきしか寒見舞
彼までも賀状じまいや半世紀(1点)
新聞の投函音や寒鴉

73. 20260128_磯子凧句会投句5句(3回目参加)

①「変」の兼題詠み込み ②~⑤当季雑詠

①黄梅や変り者かな別に咲く／黄梅や変り者かな先に咲く
②億両やつい万両と比べをり／万両やつい億両と比べをり
③寒晴や臥龍梅まで睨みける／寒日和臥龍梅もが睨む空／成す群や臥龍梅との日向ぼこ
④蠟梅や黄の甲冑の一番手
⑤新聞の投函音や寒雀／新聞の配達の音寒鴉(かंगाらす、かंगा、3音でもOK)(1点)
⑥日めくりの当たる格言初暦／日めくりのささる格言春隣(1点)

74. 20260204_未来塾「俳句を楽しむ ①兼題「洗う」1句 ②当季節雑詠1句

①筆洗い上達願う冬薔薇／冬薔薇上達願う筆洗い(1点)
②日めくりの当たる格言春隣／日めくりのささる格言春隣(6点)

- ③霜柱白き池辺の朝残る／霜柱光る池辺の朝残る
 ④春隣梅と菜の花の揃い踏み／淡き日の梅と菜の花まぶしかり／東風吹けば梅と菜の花
 揺れ合えり／金色の海に浮きたる紅白梅

75. 20260218_未来塾「俳句を楽しむ ①兼題「欠ける」1句 ②当季節雑詠1句

- ①欠ける手の雛人形や細面／欠ける手の雛人形や古屋敷／欠ける手の雛人形や江戸の
 顔／欠ける手の雛人形や明治顔／欠ける手や雛人形の細面／欠ける手の雛人形や長面
 ／池上の欠けし燈籠枝垂れ梅／板粕の売り切れ惜しむ冬帽子／酒粕の完売を知る冬帽
 子／蔵出や雛人形の細面
 ②春の雪中2の家も雪だるま／春の雪中2の家もミニだるま／春雪や中2の家もミニだるま
 ／淡雪やいで湯気分のジム露天／角打の古さ争い春の宵

76. 蛭77号の「蛭作品」6句への投句

題名:日めくり

住所:横浜市

氏名:木下 研作

仮名遣い:旧かな

作品(6句):

日めくりのささることわざ春隣
 冬薔薇上達願ひ洗う筆
 松過や響く石焼蒔の声
 看病の甲斐もなきしか寒見舞
 彼までも賀状じまいや半世紀
 角打ちの濁酒試す冬日和

佐藤 久先生のご指導で、旧仮名遣い(下線部)と順序(時系列昇順)を変更し、以下で投稿

日めくり 横浜市 木下研作

角打ちの濁酒試す冬日和

冬薔薇上達願ひ洗ふ筆

彼までも賀状じまひや半世紀

松過や響く石焼蒔の声

看病の甲斐もなきしか寒見舞

日めくりのささることわざ春隣

77. 20260216_第70回神奈川県現代俳句協会インターネット句会3句_当季雑詠など何でもよい

①春雪や中2の家もミニだるま

②淡雪やいで湯気分のジム露天

③欠ける手の雛人形や細面

78. 20260220_第六回木の芽風「俳句の島」俳句大会

① 欠けし手の雛人形の細面

前回)竹林の厚き敷き藁春隣⇒「秀逸」作に選定

②跳ね返る川面の光春の鯉／日めくりのささることわざ春隣

前回)蠟梅や黄の鎧兵一番手

79. 20260221_ 蚤の会 第193回熱刀句乱舞句会@横浜市幸ヶ谷集会場

- ①テーマ「広める」2句 例えば、広告、広場、広野、等々もOK
②雑詠2句 計4句 cf欠席者投句 テーマ1句雑詠1句 計2句

①黄砂舞う舞鶴湾の広き空／黄砂舞う天の橋立の広き空／酒粕の完売広告冬帽子／酒粕の売り切れ惜しむ冬帽子／酒粕の売り切れ表示角打ち呑み／梅の香や広野の菜花と揃い踏み／広野風菜の花揺れる吾妻山／菜の花や 広野の果ての 海の青／菜の花や 広野の果ての 相模湾／菜の花や 畑の果ての 相模湾／寒風を 黄色に変える 広野かな

②枝垂れ梅自撮りの二人空くを待つ／梅まつり磯子芸妓のハマ音頭／淡雪や湯気に月みるジム露天／春愁や捨てる本束紐を解く／菜の花忌遠き雲見る坂の上／ネジを巻く懐中時計や父の春／

(参考)20251220_ 蚤の会 第192回熱刀句乱舞句会

- ①テーマ「控える」2句
芭蕉忌の山寺登る最後かな(1点)
年の瀬やし残し並ぶ手帳替え

②雑詠2句
葉にと桜紅葉や夕陽坂
冬日差す枯露柿の陰古屋敷

80. 20260222_第50回三溪園観梅俳句大会@鶴翔閣

囑目 1句

- ①寒晴や臥龍梅まで睨みける／寒日和臥龍梅もが睨む空／成す群や臥龍梅との日向ぼこ／臥龍梅歳を重ねど空にらむ／地を這うや支柱の朽ちし臥龍梅(石田作)
②梅東風(うめぐち)や 根岸の海の 香を運び／春疾風(はるはやて) 茅葺き屋根を 撫でてゆく／草餅の 香りに誘われ 園の茶屋／三重塔 空を貫き 春の雲／大池の 波紋をゆらす 梅の風／臥竜梅(がりょうばい) 地を這う龍の 目覚めかな／梅の香や三重塔天を刺す(1点)

81. 20260304_ 未来塾 俳句を楽しむ ①兼題「切る」1句 ②当季節雑詠1句

- ①酒粕の売切を知る冬帽子／酒粕の売切惜しむ冬帽子／水面切る鴨の航跡光りける／梅切って甲斐ある色の極まれり(色の鮮やかさを強調)／剪定の際にこぼるる梅の花(作業の跡を具体的に表現)／梅の枝切りし甲斐あり際に咲く／梅の枝切り際より咲きにけり(添削1)／梅の枝切りしあたりに咲きにけり(添削2)
②淡雪やいで湯気分のジム露天／角打の古さ争い春の宵／春節や百節龍とにらみ合う

後日佐藤先生から以下の講評をいただきました。

今回の木下さんの句について

梅の枝切りし甲斐あり際に咲く(木下研作)

実感のある句ですが、俳句としては説明的で作者の感想を言ってしまう。「甲斐あり」などと主観的な観念語(具体的なモノではないので、映像が浮かばない)は使わないようにしましょう。「咲いた」という事実を出すだけで十分です。

「際に咲く」は少し意味がとり難い。枝の際なのか、塀際なのか？

おそらく「切口」の際でしょう。

(例) 梅の枝切し際より咲きにけり

梅の枝切りしあたりに咲きにけり

△23. 春節や百節龍とにらみ合う(木下研作)

これは勢いのある句で良いと思います。横浜中華街の景でしょう。

私は実景が浮かびましたので、予選で頂きましたが、「百節龍」が

分からないかも知れませんね。私も調べて知りました。

82. 20260318_未来塾 俳句を楽しむ ①兼題「流れる」1句 ②当季節雑詠1句

①

②

以上